

令和 2 年度
 劇場・音楽堂等機能強化推進事業
 (地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
 成果報告書

団 体 名	長久手市	
施 設 名	長久手市文化の家	
助 成 対 象 活 動 名	普及啓発事業	
内定額(総額)	388	(千円)
公 演 事 業	0	(千円)
人 材 養 成 事 業	0	(千円)
普 及 啓 発 事 業	388	(千円)

(1) 令和2年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	
1				目標値	
				実績値	
2				目標値	
				実績値	

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和2年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	
1				目標値	
				実績値	
2				目標値	
				実績値	

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和2年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	エデュケーション・プログラム 中学校であーと	中止	コロナ禍のため中止	目標値	市内中学校 校全校生徒約 540
		中止		実績値	
2	エデュケーション・プログラム 小学校であーと	中止	コロナ禍のため中止	目標値	長久手市 内全6小学校での 実施(継続)
		中止		実績値	
3	平日マチネ事業「午後の竹み」	6/23 7/26 8/23 10/16 1/14 2/25	<p>第1回 6/23(火) 新型コロナウイルス感染症対策モデルコンサート～ゆったりカルテット～ 【出演者】平光真彌、荒巻理恵、新谷歌、河井裕二 【会場】長久手市文化の家 森のホール</p> <p>第2回 7/26(日) 新型コロナウイルス感染症対策モデルコンサート Blue Distance～ふたりの小粋なジャズ～ 【出演者】平光広太郎、出宮寛之 【会場】長久手市文化の家 風のホール</p> <p>第3回 8/23(日) 新型コロナウイルス感染症対策モデルコンサート サックスとピアノで甦る あの日、あの時 【出演者】石川貴憲、菅原拓馬、藤島えり子 【会場】長久手市文化の家 森のホール</p> <p>第4回 10/16(金) 映画音楽、名曲を歌う ロン・メイヤーピアノ弾き語り 【出演者】ロン・メイヤー 【会場】長久手市文化の家 風のホール</p> <p>第5回 1/14(木) サックス&ピアノ クラシックとジャズの交差点 【出演者】石川貴憲、丸尾祐嗣、坂井彰太郎、平光広太郎 【会場】長久手市文化の家 森のホール</p> <p>第6回 2/25(木) ソプラノとピアノによる日本歌曲コンサート 【出演者】本田美香、丸尾祐嗣 【会場】長久手市文化の家 森のホール</p>	目標値	250
		長久手市文化の家 森のホール 風のホール	実績値	のべ 748	

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

新型コロナウイルス感染症の影響により、採択をいただいた普及啓発事業「中学校であーと」「小学校であーと」「午後の佇みシリーズ」のうち、学校アウトリーチである「中学校であーと」と「小学校であーと」は中止せざるを得ない状況となり実施することは叶わなかった。唯一、「午後の佇み」シリーズのみが実施することができたため、本自己評価では「午後の佇み」シリーズについて記載する。

本市の文化施策は、長久手市文化芸術マスタープランに基づき市の文化芸術施策の基本理念「ともに創る きらめく長久手」を実現するために、「誰もが参加でき、充実を得られる文化芸術環境」「芸術のまちアイデンティティの確立」「文化芸術を活かしたまちづくり」の3つの基本方針のもと実施されている。

「午後の佇み」シリーズは、基本方針のひとつ「誰もが参加でき、充実を得られる文化芸術環境」として位置づけ、平日の昼間に気軽に来られるコンサートとし、ターゲットは長久手市内あるいは近郊の中高年層とした。

長久手市は住民の平均年齢が40歳で日本一若いまちとして知られているが、それは同時にこれから中高年層が増加していくことも示している。中高年層をターゲットにした理由として、社会においてリタイヤした世代が自由な時間をどう過ごすのかを考えることが、地域で取り組む課題であり、この課題を解決するのに、劇場という場所が、中高年層の外出の機会や交流の場になり得るという点で、今後重要と考えたからである。リタイヤによって生活が変化し、外出の機会や人と関わる機会が少なくなるとともに、フレイル状態に陥るのを防ぐことにねらいがある。リタイヤ世代が来場しやすいように、開催時間を平日の昼間としている。公演の鑑賞という外出機会をきっかけに、劇場はもちろん、日常的な外出機会を増やしていくことにつなげることを見据えている。

幅広い対象者に楽しんでもらうため、ジャンルにとらわれず高い技術をもったアーティストの音楽を低価格で提供し、シリーズ化することで地域の中高年層が気軽に足を運べる施設を目指す試みとした。

結果として、ターゲットとした中高年層（50代以上の来場者）が来場者全体の82%となった。前期は新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言を受けて、開催が延期されたものもあった。しかし再開後、新たに企画を立て直し、当初予定していた4回を6回に増やして年度内で実施することができた。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

本事業の特徴として、入場料が低価格でありながら、高い技術をもったアーティストによる音楽を提供している点があげられる。アンケートの自由記述の中にも「ぜいたくな演奏会だった」「もう1000円追加してもいい」などの声も見られ、質の高い内容に対して、料金設定が低いことがよくわかる。中高年が気軽に劇場に足を運びやすいように低価格な料金設定にしているが、その試みが成功しているとともに、演奏会の内容に見合った対価を払う意識が芽生えていることも見て取ることができ、聴衆の育成にも効果を上げている。本事業の継続的な実施は、多くの中高年層が外に出る「きっかけ」となるだけでなく、新たな関心や興味を呼び起こすことにもつながっている。

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

普及啓発事業で実施ができた唯一の事業である「午後の佇み」シリーズにおいては公演アンケート項目を元に、スタッフの対応、文化の家へ足を運ぶ頻度、公演の満足度、を目標値に設定した。(公演アンケート回収率 平均 80.96%)

●スタッフの対応満足度 平均 92.26% 目標値 90%【目標達成】

(公演アンケートのスタッフの対応項目に“とてもよかった”または“よかった”と回答した割合)

●文化の家に足を運ぶ頻度 平均 75.54% 目標値 30%以上【目標達成】

(公演アンケートの来場頻度の項目で“1年に3~9回”と回答した人の数値)

●公演の満足度 平均 94.83% 目標値 90%以上【目標達成】

(公演アンケートの満足度の項目で、“とてもよかった”または“よかった”と回答した割合)

公演の満足度について、午後の佇みシリーズは、どの回においても中高年にとって親しみやすい内容や懐かしさを感じる曲目の選定を心がけていたためか、満足度が高い結果となった。各目標値は十分に達成されており、有効な事業であったといえる。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

令和2年度は、事業期間や実施予定日については新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言で、閉館期間があった影響を受けて、当初の計画のとおり日程では実施が難しい公演もあり、延期した公演が2公演あった。劇場再開後、コロナ禍で実施可能な公演が減ってしまったため、急遽2公演を追加し、予定していた4回から6回に増やすこととし、そのすべてを年度内に実施することができた。

事業費としても、当初予定から回数を増やしたにも関わらず、コロナの状況に配慮した出演者たちの協力により、出演費が調整が可能となり、事業費の変更をすることなく予算の範囲内で実施することができた。このことから事業費から見た効率性は大変よかったといえる。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

「午後の佇み」シリーズは、そのほとんどが地元アーティストの出演によるものであり、プロモーターなどを介することなく、長久手市文化の家が一から企画を制作し、アーティストの協力を得て創作している。制作の段階からアーティストが参加することで、アーティスト側にも企画の趣旨を理解してもらうことができるため、ターゲットに合った企画を創出することができる。

「第3回 8/23(日)サククスとピアノで甦る あの日、あの時」や「第6回 2/25(木) ソプラノとピアノによる日本歌曲コンサート」などの公演では、特にターゲット層に合ったプログラミングを劇場とアーティストが共同で組み立て、結果として来場者アンケートでも、「選曲が素晴らしい」「企画がよい」などの声をいただいております。アーティストと共に創作している部分が来場者の満足感につながっている。

以上の点から地域文化拠点としての役割である、地域住民のニーズを汲んだ適切な、芸術観賞機会を提供しているといえる。地元アーティストが企画段階から関わり、地域のニーズを把握したうえでの演奏活動を行うことによって、劇場を介して地域住民と良好な関係を築くことに成功している。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

日本一若い街といわれている長久手市だが、今後増加するであろう中高年層に文化の家に足を運んでもらう“きっかけづくり”として「午後の佇み」シリーズを企画した。社会においてリタイヤした世代が自由な時間をどう過ごすのかを考え、社会とのつながりを保っていくことは、地域で取り組む課題であり、このつながりのひとつとして公共文化施設である文化の家は大きな役割を果たすことができる。ジャンルにとらわれず、平日の午後に、質の高い音楽を低価格で提供する「午後の佇み」は、中高年層にとって気軽に足を運んでもらいやすい特徴があり、実際に来場者アンケートを分析すると、50代以上の来場者の平均割合が全体の80%以上となっている。この点から当初の目標である、文化の家での芸術観賞が、中高年層の外出機会として浸透しつつあることが認められる。

この「午後の佇み」シリーズをきっかけとして、文化の家に訪れた中高年層が、文化の家で開催される「午後の佇み」以外の事業にも関心を持ち来場することもあるため、生の舞台公演や芸術作品をあまり鑑賞してこなかった市民、普段の生活で文化芸術に触れることが少ない市民が、文化芸術を暮らしの中の一部として取り入れ、自由な時間を充実させ、社会の中で彩りのある時間を過ごしていく助けになっている。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

「午後の佇み」は成果として多くの中高年層に来場いただいた。「午後の佇み」はシリーズとしても定着してきており、次の公演を待ち望む声も多い。定期的に劇場へ足を運んでもらうという本事業の目的からも、継続的に展開していくことが望ましい。また文化の家は、この中高年層が劇場に来場した機会を逃さぬように、午後の佇み開催時には、午後の佇み以外の他の公演のPRを積極的に行った。「午後の佇み」とは趣旨の異なる、本格的なクラシックのコンサートや、演劇、美術などの他分野の事業に関するチラシを配布した。実際に「午後の佇み」で得た情報で、夜のコンサートや他の公演に来場するお客様も見えた。本事業をきっかけとして、文化芸術への広い興味を誘発し、劇場で開催される公演の多くに来場するお客様を増やしていくことができることから、文化の家の持続的な事業の展開にも一定の効果を示している。